

大学

企画課管理用 管 — C — 2

推進主体	IRオフィス
責任者	IRオフィス長

分類	実施計画	開始年度	完了年度	将来的な継続
管 — C	②教学IRの促進による教育活動の見直し等への適切な活用	令和 4 年度	令和 9 年度	あり(予定)

① 目的・内容

令和21年度に本学があるべき姿＝ビジョンを実現するため、関連部門と協働し、学修成果を可視化する方法の確立、並びに成果向上を目指す教育方法の研鑽に寄与する各種教学データの整備、活用提案を、BIツール「Tableau」を駆使して行う。

教育活動の見直し等を行う上で、その到達目標や過程を議するために用いる「学生の学修成果を定量的に図る指標及び定性的なデータの活用方法」の確立を目指す。そのために以下3点を中長期的かつ段階的に推進し、学修成果の可視化を通して教育方法の質の継続的な向上を図る。

(1)関連部門と連携し、学修成果を測る定量的指標及び定性的なデータ活用方法の策定を行う。  
(2)学修成果の可視化及び教育方法改善に資するデータ提供の可能性の考察を行う。  
(3)教育方法の検討に資する効率的かつ有効的なデータ活用方法の確立と経年比較の実施を行う。

② 到達目標(数値目標/定性目標) ※数値目標を設定できない計画は、定性目標を設定すること。

学生の学修成果を定量的に測る指標及び定性的なデータの活用方法を確立することを第一の目標としている。しかし、この指標は学修成果を測るための前段であり、策定が最終目標とならないように注意する必要がある。そのため最終目標を、〈各学部・学科で「学修成果の可視化」を議する際に十分な根拠となるようなデータを提供し、適切に活用され続けること〉と設定する。

③ ロードマップ

年度	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)
予定	(1)学修成果を測る定量的指標及び定性的なデータ活用方法の策定						
			(2)教育方法改善に資するデータ提供の可能性の考察				
					(3)教育方法の検討に資する効率的かつ有効的なデータ活用方法の確立と経年比較の実施		

④ 数値目標の詳細 ※設定できない計画については記載不要。

指標の名称		指標の定義(計算式/説明)					
1							
	直近	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)
目標							
実績							
2							
	直近	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)
目標							
実績							

## (様式2) 実施計画書 兼 報告書

⑤ 実施計画／実施報告		
年度	実施計画	実施報告／今後の課題
令和4年度 (2022年度)	<p>学修成果を測るために用いる定量的指標及び定性的なデータ活用方法の策定を行う。具体的には、これまでIRオフィスにて実施していた各種調査や授業評価アンケートに関して、質問項目等の再検討を行う。</p>	<p>令和4年度は、学習成果の把握を行うための指標に関する見直しを行った。IR推進委員会において、上記指標を可視化するための手段として在学生調査質問紙の見直しに係る審議を行う予定で、令和5年度以降の調査から反映できるように準備を行っている。</p> <p>★進捗段階:「計画立案」</p>
令和5年度 (2023年度)	<p>学習成果の把握・可視化のためのデータ取得方法について、学内での合意形成を目指す。 具体的な調査スケジュールは、令和5年度の1月～3月に1～3年生を対象として、3月～令和6年度の5月に4年生を対象として行う予定である。また、質問紙の改訂を行うため、在学生調査集計システムの改修を調査開始日までに完了させる。</p>	<p>令和5年度中にIRオフィス単独で学習成果の把握・可視化を行うための調査を行う予定であったが、2022年度に受審した認証評価や、2023年度に受審した外部評価の結果を踏まえて、内部質保証の枠組みの一環で学習成果の把握・可視化を行うことが望ましいと判断したため、令和5年度は、全学的な学習成果の把握・可視化の方法を内部質保証の枠組みの一環で検討する年とした。 具体的には、学長や認証評価担当副学長、教育担当副学長等を交え、学習成果の把握・可視化の指標を検討し、各学科が定めているDPの自己達成度を在学生調査、卒業生調査で測る方針を定めた。本方針をIR推進委員会で議論し、承認された場合は、令和6年度以降に、各調査を行う予定である。</p> <p>★進捗段階:「計画立案」</p>
令和6年度 (2024年度)	<p>令和5年度のIR推進委員会で決定した案に基づき、それぞれ卒業生調査を11月に、在学生調査を1月に、各学科が設定しているDPの達成度を測る質問を盛り込んだ上で実施を予定している。実施後、IRオフィスで結果を「Tableau」を駆使して集計し、令和7年度のIR推進委員会にて報告する。本調査結果は、経年で比較分析を行うため、IRオフィスにてデータを蓄積する予定である。</p>	<p>昨年度のIR推進委員会で、在学生調査に、各学科が設定しているDPの達成度を測る質問を追加することについて審議した結果、追加することが承認された。この決定に基づき令和7年1月～5月に全学部学生に対して、本調査を実施する。集計結果はIR推進委員会で報告し、学内での周知を行う。</p> <p>★進捗段階:「実施展開」</p>
令和7年度 (2025年度)	<p>令和7年度は、新調査票での実施が2年目となるので、前年度との比較分析を行い、傾向を把握したい。また、調査結果を教学改善に生かすための方法について、関係部門と検討を行う。</p>	<p>令和6年度在学生調査において、各学科が設定しているDPの達成度を測る質問を追加した。その調査結果の活用は教務課と連携して各部門へ配付し、今年度7月開催の教務委員会において、教育研究上の目的及び教学に関わる3つの方針およびカリキュラムマップの点検に利用するよう周知した。</p> <p>★進捗段階:「実施展開」</p>
令和8年度 (2026年度)	<p>令和8年度の大学・女子大学統合に関して、新入生アンケートで統合に関する設問を設定するなど、統合の影響に係るデータ収集について検討する。 また、本計画の目標達成に向け、在学生調査におけるDP達成度の調査および活用推進の継続に努める。</p>	